

2 0 0 4 年 4 月 2 2 日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-5614-1078

## 光硬化型樹脂市場調査を実施

- 光ディスクコーティング市場は2009年には2003年の5倍の規模に拡大 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、塗料・コーティング分野、エレクトロニクス分野において需要が拡大し、多用途化が進む光硬化型樹脂市場の調査を行った。その結果を調査報告書「2004年光硬化型樹脂・製品市場の全貌」にまとめた。調査報告書では、光硬化型樹脂が使用される液晶ディスプレイ、携帯電話、光ファイバー、レジストといった製品市場をとらえ、日本、世界における光硬化型樹脂の動向をまとめ、地域別・応用製品分野別にデータを分析している。

< 調査のまとめ >

### ・光硬化型樹脂市場

対象品目 モノマー、オリゴマー(エポキシアクリレート、ウレタンアクリレート、ポリエステルアクリレート)

国内市場規模

2003年実績 193億円 2007年予測 237億円(対2003年比 123%)

#### 1. 光硬化型樹脂主要製品動向

##### モノマー

(国内市場規模)2003年実績 105億円 2007年予測 133億円(対2003年比 127%)

使用メーカーの海外生産シフトにより、海外で使用されるモノマーも増えており、日本を除くアジアの需要は日本と同程度になっている。欧米でのモノマー需要は木工用塗料向けなどで市場が大きく、日本の5~6倍ある。製造コストを下げるためにモノマーユーザーの海外生産シフトが進んでおり、モノマーメーカーも海外生産シフトが進みつつある。材料としてのモノマーもまたコストダウンの対象となっている。

##### ウレタンアクリレート

(国内市場規模)2003年実績 41億円 2007年予測 49億円(対2003年比 120%)

木工メーカーが中国を中心に海外へ生産シフトしている。そのため海外でのウレタンアクリレートの需要も増加傾向にある。海外ではコストダウンの要求も強い。原料供給メーカーでは、海外進出に積極的に取り組むよりも国内で液晶などのハードコート向けをターゲットにする方が収益率は高いと考えている。また、海外では粉体UVの市場開発が進められており、アメリカの自動車メーカーで一部採用されている。世界規模で見ると、粉体UV、水系UVは日本よりも海外主導で採用が進んでいる。

### ・光硬化型樹脂応用製品市場

国内市場規模

2003年実績 1,235億円 2009年予測 1,564億円(対2003年比 127%)

海外市場規模

2003年実績 5,194億円 2009年予測 7,159億円(対2003年比 139%)

世界市場合計

2003年実績 6,429億円 2009年予測 8,723億円(対2003年比 137%)

紫外線(UV)や電子線(EV)照射により架橋・硬化させる技術は建材や家具のクリア塗装、ドライフィルムレジスト、液状ソルダレジスト、半導体レジスト、液晶ディスプレイ用レジスト、光ファイバー、プラスチックコーティング、紙の艶ニス、印刷・製版材料作成、印刷インキ、接着剤などの様々な分野で幅広く使用され、多用途化が進むと同時に、製品の効率的な生産と高品質化には必要不可欠な技術となっている。

< 光硬化型樹脂応用製品用途別市場 >

#### 1. エレクトロニクス分野

(対象品目)UVレジスト、DeepUVレジスト、液状ソルダレジスト、電着レジスト、ドライフィルムレジスト、液晶用

フォトレジスト、ダイシングテープ

国内市場規模

2003年実績 578億円 2009年予測 764億円(対2003年比 132%)

海外市場

2003年実績 1,916億円 2009年予測 2,866億円(対2003年比 150%)

世界市場合計

2003年実績 2,494億円 2009年予測 3,630億円(対2003年比 146%)

2001年はIT不況によってエレクトロニクス産業の需要は大幅に落ちたが、2002年、2003年は液晶、デジタル家電、携帯電話の需要の伸びに支えられ需要は回復に向かっている。

日本では、高性能、ハイエンド製品の生産が中心となり、成長スピードは緩やかであるが市場は拡大基調である。アジアでは中国を始めとして、エレクトロニクス製品の生産拡大が続いている。

## エレクトロニクス分野主要製品動向

### 1) 液晶用フォトレジスト

国内市場規模

2003年実績 65億円 2009年予測 100億円(対2003年比 154%)

海外市場

2003年実績 62億円 2009年予測 100億円(対2003年比 161%)

世界市場合計

2003年実績 127億円 2009年予測 200億円(対2003年比 157%)

液晶パネルは台湾や韓国で第5世代製品が立ち上がり、需要が日本から韓国・台湾へシフトしている。現在液晶用レジストの需要は、日本、台湾、韓国でほぼ占められている。ここにきて中国への生産シフトが進行し始めている。

### 2. 塗料・コーティング分野

(対象品目)

UV硬化型塗料・コーティング、UV硬化型インキ、光ディスクコーティング、光ファイバーコーティング

国内市場規模

2003年実績 386億円 2009年予測 462億円(対2003年比 120%)

海外市場

2003年実績 1,887億円 2009年予測 2,530億円(対2003年比 134%)

世界市場合計

2003年実績 2,273億円 2009年予測 2,992億円(対2003年比 132%)

VOC(揮発性有機化合物)規制による脱溶剤、水系への動きが追い風となり、塗料・コーティング分野で大きなウエイトを占めるUV硬化型塗料・コーティングが建材分野を中心に需要が伸びている。ハードコーティング対象となる携帯電話の生産は国内で飽和状態になりつつあるが、かわって液晶関連などの採用も増えている。記録メディアではCDコーティングに変わりDVDコーティングの需要が急速に普及している。

## 塗料・コーティング分野主要製品動向

### 1) UV硬化型塗料・コーティング

国内市場規模

2003年実績 130億円 2009年予測 150億円(対2003年比 115%)

海外市場規模

2003年実績 650億円 2009年予測 800億円(対2003年比 123%)

世界市場合計

2003年実績 780億円 2009年予測 950億円(対2003年比 122%)

木工用途では建材メーカーによる中国や韓国への輸出が増えている。現状では建材メーカーも国内向けの方が多く、海外で現地生産するほどの体制にはない。今後は、中国市場の拡大動向によって現地生産が検討される。建材メーカーにとってもラインの整備や、塗料の指定などを行う必要がある以上、輸出分が20%~30%になれば現地生産が検討される可能性はありうる。一方で、中国での携帯電話関連の生産が急速に増加しており、当初は輸出で対応していたが、現地生産率が上昇している。また、プリント配線板などでは

中国の沿海部が活況を呈している。欧米市場は環境対策などが厳しく、日本よりも規模は大きい。欧米での展開は現地生産が主流となる。

## 2) 光ディスクコーティング

国内市場規模

2003年実績 5億円 2009年予測 21億円(対2003年比 420%)

海外市場

2003年実績 12億円 2009年予測 72億円(対2003年比 600%)

世界市場合計

2003年実績 17億円 2009年予測 93億円(対2003年比 547%)

台湾でのDVD-Recordable用の需要が飛躍的に伸びていることを踏まえ、アジア地域での生産拠点構築を検討中である。

## 3. その他分野

(対象品目) 紫外線硬化型接着剤、可視光線硬化型接着剤、光造形用樹脂、感光性印刷版、光重合型歯科材料

国内市場規模

2003年実績 270億円 2009年予測 338億円(対2003年比 125%)

海外市場

2003年実績 620億円 2009年予測 942億円(対2003年比 152%)

世界市場合計

2003年実績 890億円 2009年予測 1,280億円(対2003年比 144%)

その他分野での需要は感光性印刷版のウエイトが高く、国内では横ばい、もしくは微増で推移している。感光性印刷版は固形のタイプのフレキソ印刷、レタープレスなどの感光性樹脂凸版印刷、液状タイプのフレキソ印刷に分かれている。紫外線硬化型接着剤、可視光線硬化型接着剤が採用されるDVD、デジタルカメラ、携帯電話、液晶プロジェクターといったデジタル家電の販売が急増していることからそれらの市場も拡大の傾向にある。また、デジタル家電の製品設計期間の短縮化が要求され、光造形システムによる形状確認、部品の機能テストが行われている。規模的には上にあげた2分野に比較して小さいが、伸びは大きなものとなっている。

**調査期間** 2003年12月～2004年3月

**調査方法** 弊社専門調査員による対象企業へのヒアリングを中心に調査

資料タイトル : 「2004年 光硬化型樹脂・製品市場の全貌」

体 裁 : A4判 283頁

価 格 : 100,000円(税込 105,000円)

資料購入者に限りCD-ROM別売り5,000円(税込 5,250円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカルグループ

TEL:03-3664-5821(代) FAX:03-3661-9541

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>